



今回の図書館だよりの記事は前期の図書委員1年生が担当しました
ここで紹介されている本は図書館で展示されています
新しい本もたくさん入ったので図書館にぜひ見に来てください



図書委員が書店で本を選びました！

図書館にて展示中です
手に取って見てくださいね



あなたの望む「全て」が手に入る、幻の一冊

『ウォーリアーズ(Warriors)』

エリン・ハンター 著/金原瑞人,高林由香子 訳 小峰書店

「ファンタジー」「恋愛」「感動」「ホラー」「友情」「冒険」.....
他にも、「家族愛」や「戦い」「裏切り」が好きな方もいるのではないのでしょうか。「動物」が出てくるお話もいいですね。では、これら「全て」が詰まった一冊があるとすれば・・・？

「ウォーリアーズ」シリーズでは主人公(語り手)を中心に、部族猫達が正義や忠誠心、愛や友情などの様々な感情に悩み闘いながら、自分達の手で未来を切り開いていきます。

<あらすじ>

1期...生後半年の幼い子猫、ラスティーはある日、森の中で“部族”の猫達と出会う。“サンダー族”の族長、ブルースターに誘われ、晴れて一族のもとで暮らすことになったラスティーだが、強大な敵が次々に現れて・・・！「火は一族を救う」

2期...裏切り者の血を引くサンダー族の新米戦士はある夜、不思議な夢を見る。“太陽の溺れる場所へ”。過去最大級に謎めいたお告げを元に、若き戦士達は旅に出る。一方その頃、部族猫達にはかつてない程の危機が迫っていた！「平和がおとずれる前に、血が血を呼び、湖が真っ赤に染まる」

3期...新たに生まれてきた、3匹のサンダー族の未来の戦士達。それぞれの進むべき道へ。それぞれにふさわしい生き方へ。幼い彼らが予言の重みを受け入れた時、物語は遂に核心を突く・・・。「おまえの血を引く者の子孫、星の力をもった三匹がこの世に生まれる」

4期...サンダー族に生まれてきた2匹の子猫。“特別な力”。“忍び寄る闇”。いつもは牙を向き合う相手と。心から信頼し合える仲間と。過去に生きた古き戦友達と。最後の戦いは、闇に満ちた森で・・・。「とくべつな力をもつ猫はもう一匹いる」(過去シリーズのオールスター登場。あの伝説の猫が再び。あなたは其の衝撃に耐えられるか。)



「宇宙人」になった宇宙飛行士



『宇宙へ「出張」してきます』 古川 聡 著 毎日新聞社

宇宙飛行士として、国際宇宙ステーションに165日間滞在した日本人宇宙飛行士、古川聡さんが、宇宙で体験したさまざまなことについて語った本です。

地球とは環境が大きく違う宇宙では、移動することすら簡単ではなく、慣れるまでは体調を崩してしまうことも。この本の中で私の印象に残ったのは、古川さんが「宇宙人」になったと感じたことについてです。

古川さんが、宇宙ステーションの地球側にある倉庫を通るたびに、穴が空いているように感じ、倉庫に入るときは足から入るくらい怖かったそうです。しかし、ある日、平気で頭から入ることができ、自身の中で「上下」という地上の感覚がなくなって、「『宇宙に慣れた、宇宙人になったな』と実感した」そうです。

宇宙という別の世界に興味があるなら、ぜひ、この本を読んでみてください。



『変な絵』



『変な絵』 雨穴 著 双葉社

前々から評価されており、最近映画化もされて大ヒットした「変な家」の作者である雨穴が出した「変な絵」。

この本は、ある9枚の奇妙な絵を軸にして物語が進んでいきます。一見、普通に見える絵もよく見ると、ところどころ不自然な点があり、見れば見るほど謎が増えていきます。

何の関連性もないと思える9枚の絵も物語が進むに連れ、秘められた衝撃の事実が明らかになります。

最初読むと「変な絵」にまつわる4つの短編かと思いますが、読み進めるうちにまるで、パズルのピースがひとつひとつ組み合わさっていくような展開になるところがこの本の魅力だと思います。

前作「変な家」のキーマンでもある栗原さんも登場し、物語に関わっていきます。

青春と日常の謎を描く『氷菓』



『氷菓』 米澤穂信 著 角川書店

米澤穂信の『氷菓』は、古典部シリーズの第1作で、青春とミステリーが交差する物語です。

省エネ主義の高校生、折木奉太郎は、姉の勧めで古典部に入部し、好奇心旺盛な千反田えると出会います。彼女を中心に、小さな謎が次々と舞い込む中、特に「氷菓」に隠された学園の秘密を解き明かしていく展開は、読者を引き込む力があります。

日常の些細な出来事を謎解きの題材とし、奉太郎の冷静な推理とえるの情熱が織りなす関係も見どころです。友情と成長が描かれた、青春ミステリーの名作です。

本の返却を忘れずに

夏休み中に借りた本は返却期限が過ぎています

